

第5回 下野市総合計画市民懇話会
グループ発表まとめ

日 時 平成23年1月19日(木) 午後2時00分～5時00分
場 所 下野市ゆうゆう館会議室
出席委員 陣内雄次会長、吉田武雄委員、尾花重吉委員、海老原新子委員、加藤芳江委員、鈴井祐孝委員、木村保弘委員、大橋正明委員、今井清起委員、大塚博委員
欠席委員 細川剛規委員、松本文男委員、山口和男委員

【テーマ】

下野市の文化と教育における課題への対応について

下野市総合計画の基本目標の1つ「1 みんなで学び文化を育むふれあいのまちづくり」を実現するために、課題への対応を検討しました。

討議の進め方は、各委員が意見を書き出した付箋を、それぞれ関連する項目ごとに集約して模造紙に貼り付け、討議を通して付箋をグループ化しました。そして、それぞれのグループについて対応策をまとめました。

上記目標の実現のため、

「(1)次代を担う人材の育成」に対して、

「多文化教育の推進・充実」

「(2)生涯にわたる学びの機会の充実」に対して、

「継続的な学びの場づくり」

「(3)豊かに暮らす文化の振興」に対して、

「一体感醸成のための会館をつくる」

という対応が必要とまとめました。

討議を通じてグループ化した対応策は 部分、委員の個別意見は◆部分

「(1)次代を担う人材の育成」、「(2)生涯にわたる学びの機会の充実」、「(3)豊かに暮らす文化の振興」全てに共通する意見

次代を担うリーダーの育成を強化する

- ◆青年健全育成のリーダー育成の考え方、所管がよくわからない。皆でやるというのは誰もやらないと同じ。
- ◆10代、20代前半のリーダー養成の継続と強化。
- ◆社会教育における青少年リーダーが少ないように思うのでリーダー育成が必要と思います。
- ◆中学校の部活のボランティア指導者が高齢すぎる。若い指導者に譲るべきだ。

「(2) 生涯にわたる学びの機会の充実」, 「(3) 豊かに暮らす文化の振興」に共通する意見

文化施設に関してもっと議論をする

- ◆総合運動場と体育館が必要。市民が一同に集まれる。
- ◆従来の旧3町地区意識から脱却し、全市で一本化できる施設の建設を提案する。
- ◆文化会館。
- ◆核となる文化会館が必要である。
- ◆全市で様々なイベントが開催できるよう、拠点となる文化会館・多目的ホールを早期建設することが重要と考えます。
- ◆文化・芸術のイベントなどを実施できる施設が不十分なため、文化会館の建設が必要と思います。
- ◆文化施設は欲しいが、庁舎が優先するので我慢するよう、広報すべきである。
- ◆グリムの館は導線上危険であるし、機能的にも問題がある。改造を計画して欲しい。
- ◆自治医大のホールなど他の機関の施設利用の取り組み。
- ◆既存施設で十分に文化祭も演芸会も素人程度ならできる。

「(1) 次代を担う人材の育成」に関する意見

音楽の総合教育への施策を

- ◆オーケストラは人間形成に役に立つ。全校にあるとよい。

外国語教育を取り入れる

- ◆音楽の授業などで英語での歌などを教えることを提案します。
- ◆AETを増員して少人数、会話中心の生きた英語教育をする。
- ◆自国の歴史・伝統・文化を学ぶ国語教育。日本を知ってはじめて外国が理解できる。
- ◆特色ある学校づくり。小・中学校で英会話能力向上のため取り組みを強化するべきと思います。
- ◆英会話時間の充実を図ることが重要と考えます。
- ◆英語圏の同世代の子どもたちと触れ合える機会の実施。

多文化教育を取り入れる

- ◆海外で居住経験のある方を講師に子どもたちに話をする時間などの実施。

- ◆アメリカとアジアの隣国（中国など）との交流をすべきだと思います。
- ◆ゆとりの時間に異文化圏の人たちを招き学びあう。
- ◆人権教育に精通する講師を内外から定期的に迎え、様々の場所で子どもたちを含めた講演会を実施すべきと考える。

地域力を学校教育に取り入れる

- ◆子ども会と老人会の交流推進に関し、行政も積極的に参画するべきではないかと思えます。（例：学術委員）
- ◆子ども会と老人会の交流推進向上のための支援が必要と思えます。
- ◆子ども会と老人会の異年齢交流の場を数多く実施すべきと思えます。
- ◆文化歴史遺産の知識を市民、特に小中学生に学習させて下野市の誇りにする。
- ◆他人と共同で成果を出す授業を増やすことを提案します。
- ◆地域の教育力の活用など、学校・PTA・地域社会が連携した、各校ごとに「地域協議会」を設置。
- ◆身近な学校など、コミュニティ活動の場として教育関係施設など「公共施設の地域開放」。
- ◆特色ある学校を実現するために、学区内の情報交換と交流を深めることが重要と考えられる。
- ◆地域（地元）のことをキチンと教えておくことは極めて大切な教育である。自信につながる。
- ◆空き教室を利用してふれあいサロンをつくり大人と小人の交流を図る。

ほめてそだてよう

- ◆学校教育における児童表彰事業は、児童の励ましのためにも継続することが必要と思えます。
- ◆「ファミリー運動」は何年もずっと続けていくことが重要である。

施設の充実を図る

- ◆学校施設の充実・促進のため、各学校から出される改善要望事項をハード・ソフトの両面から対処することを提案します。
- ◆耐震診断・工事は優先的に実施すべきである。安全・安心のまちの基本条項。

特別支援教育への施策

- ◆多動性障がいに対し、補助の先生がいるといい。
- ◆学校教育（良悪も）
- ◆幼稚園就園促進のための幼稚園就園奨励金と施設の完備が必要と思われます。

「(2) 生涯にわたる学びの機会の充実」に関する意見

生涯学習の総合計画を策定しよう

- ◆各種ボランティア活動の統括的情報把握がそろそろ必要となってくる。

- ◆今の運動場を使いこなす知恵を働かせれば、総合的なものはいらない。
- ◆生涯学習は協働のための掘り起こしを念頭に継続的・広域的に力を入れる施策が必要。
- ◆従って生涯学習の総合計画を策定し、協働とどう結びつけるか、ラウンドテーブルに着くようにする。
- ◆青少年健全育成のため、保護者を対象とする「親学習プログラム」を導入すべきと考えます。

生涯学習の更なる振興

- ◆生涯学習に関する案内や相談の窓口を土・日など市民に利用しやすい日時に開設するなど環境の整備が必要と思います。
- ◆生涯学習の推進。
- ◆生涯学習の活動は、有料でも拡大するべきと思います。
- ◆青少年育成団体相互のネットワーク構築することを提案します。
- ◆年代別・種目別に各種スポーツは結構盛んである。続けてもらいたい。
- ◆市をあげてスポーツの強化選手を育成する施策が必要です。

情報学習場をつくる

- ◆気軽に利用できる「ネットカフェ」の設置。
- ◆社会人向けパソコン教育は今しばらく継続しないといけない。
- ◆市民がいつでも自由に学べる情報関係施設をつくる。指導スタッフも必要。
- ◆社会人が習えるコンピューター施設。
- ◆e - ラーニングシステムの活用を避けて通れないのでは 具体的な支援法の研究。
- ◆インターネットの利用者が限られているため、利用者が増加する支援が必要と思います。

図書館機能を充実させよう

- ◆学校教育と図書館活動を有機的に結びつける施策が必要なのは。
- ◆国分寺の図書館は利用者の割に学習机空間が少ない。
- ◆三地区共同となるよう図書館のどこに求められる本があるか明示することが必要と思われる。

「(3) 豊かに暮らす文化の振興」に関する意見

当市の知的財産を掘り起こし、文化振興に寄与させる

- ◆当市の知的財産を総括する会議を持って、実施に移す。大学を取り込むことに相当力を入れる。
- ◆知的創造を構築していくため、民・学・産・公等が連携した「戦略会議」を設置。
- ◆ゆかりの文化人バンクを整備するなど、積極的に内外へ活用。
- ◆埋もれてしまった地域文化の掘り起こしと醸成はもっと積極的に行動をすべき。予算と人材をつける。

文化財の積極的利用を推し進める

- ◆地域文化財の保護プログラムを構築し、郷土の文化遺産を次世代に残すべきだと考えます。
- ◆文化財の保護活用については、風土記の丘資料館の県の対応を待ってからではどうか。
- ◆「文化遺産取扱総合計画」の作成を始めてから各論におとす。
- ◆団塊の世代の活用は当市の命運を握る！相当気合を入れて総合的に取り組む体制が必要。
- ◆文化遺産の取り扱いについて、文科省・県と恒常的な会議を持って当市の役割と広報を計画立案する。
- ◆「下野朝臣古麻呂」の戯曲をつくり、後世に残る芝居に仕立てたい。
- ◆当市の文化財に関する市民教室を設け、しっかりと認知させることから始めたらよいと思う。

市民交流の促進を図ろう

- ◆旧3町の地域間交流をもっと積極的に行う。
- ◆地域間交流は行政・学校・市民・企業と多岐にわたるはず。取りまとめて、その目的・事業の把握をする。効果も。
- ◆新市として市民が一体になれば、誇れる新しい文化の創造と育成への取り組みが重要と考えます。
- ◆協働のまちづくりを促進するため、気軽に利用できる「まちづくりサロン」の設置。

【テーマ】

下野市の産業における課題への対応について

下野市総合計画の基本目標の1つ「2 知恵と意欲で創造性豊かなまちづくり」を実現するために、課題への対応を検討しました。

討議の進め方は、各委員が意見を書き出した付箋を、それぞれ関連する項目ごとに集約して模造紙に貼り付け、討議を通して付箋をグループ化しました。そして、それぞれのグループについて対応策をまとめました。

上記目標の実現のため、

「(1) 大都市近郊農業の振興」に対して、

「総合的農政問題取り組み チーム編成 急ぐ！」

「(2) 工業・商業の振興」に対して、

「大学を意識した企業誘致推進」

「(3) シティ・セールスの振興」に対して、

「観光総合計画の策定とその人づくり」

という対応が必要とまとめました。

討議を通じてグループ化した対応策は 部分、委員の個別意見は◇部分

「(1) 大都市近郊農業の振興」に関する意見

農業に係る課題を住民にまず知ってもらう機会を設ける

◇農家の高齢化は放物線状に進んでおり、一気に崩壊する。一般市民、国民はそれに気づいていない。よくよく知らせるべきだ。

◇今後のTPPなどの問題を意識し、国際競争力向上に向け、国際基準を意識した農産物生産への取り組みが重要と思います。

◇農業政策は市だけでは進められないが、農業委員会を強化して活性化を図る。

農地問題の解決チームを立ち上げ

◇圃場整備事業はよくされているとしているが、ごく一部である。まだまだ足りない。

◇不良債権化した農地の放棄の問題は大きな社会問題になる。現に国へ返すとか、市へ寄付するとかの話も出始めている。

◇大きな意味で将来予想できる農地問題を解決するプロジェクトチームが必要である。

農業委員にだけ押しつけてはおけない。

農業支援への取り組みを全市で議論することから始める

- ◆農業者への支援はとにかく地元産のものを積極的に地元で消費することにある。
- ◆今後の国内・市内人口減少を考えると、地産地消では先細りが予測され、また地産地消はある程度達成できているため、地産外消に変更した取り組みが重要だと思います。
- ◆外圧のショック療法も含めて農業のあるべき姿を模索すべき。食料は戦略物資である。
- ◆大都市近郊農業の推進のための農業後継者の育成に更につくすべきです。
- ◆農産業振興のためにも農業者担い手の支援が必要と思います。
- ◆農村集落を維持するため、居住用建築の規制緩和。
- ◆市がより積極的に農業者の支援を行う。(ハード・ソフト両面で)

観光農園にも目をやろう！

- ◆市の特産品を中心に観光農園団地をつくり、人を呼び込む。
- ◆都市型農業の形成を図るため「農業公園・クラインガルテン等の整備」
- ◆観光農家には補助金を出して支援する。
- ◆クラインガルテンの事業を推進するのも、当市の立場からも、休耕地の有効利用からもよいのでは。
- ◆観光農園の推進。学習会が必要だ。
- ◆従来の観光資源に加え、新規に候補地を策定し、観光産業(農園)に力を注ぐことを提案します。

すり合わせのアプローチを計る

- ◆市内のJ A管轄の早期一本化が必要だと思います。

農業の第六次産業化の試行と活性化(案)策定

- ◆既存の農作物も含め、「道の駅しもつけ」ブランドを早急に構築し、内外に発信することを提案します。
- ◆当市の農産物のブランドはどうしても2～3個作らないと道の駅を作った意味も薄れる。
- ◆かんぴょう料理のコンテストをする 道の駅のブランド品。
- ◆特産であるかんぴょうに付加価値を付け商品化し、道の駅で販売する。
- ◆かんぴょうやちぢみほうれん草ではなく、もっと消費量の多い農産物でのブランド化への取り組みが重要だと思います。
- ◆「道の駅しもつけ」ブランド品。
- ◆当市のブランド野菜の見直し。ブランド野菜(ちぢみほうれん草)など生産支援と市場拡大の協力を行って欲しい。
- ◆「道の駅しもつけ」を広めるため、ブランド品の生産支援を強力にする必要があると思います。
- ◆農産物の第六次産業化はもっと慎重に検討すべきだ。

- ◆農業法人設立を進める。
- ◆農業法人設立のため支援を強力にする必要があると思います。
- ◆農産物の第六次産業化を総力を挙げて(官・民・企業・大学・研究所)取り組みたい。若い人を入れる。
- ◆農産物を新製品に加工する コンクールなどのPRをする。
- ◆首都圏への地理的良さや交通の利便性の良さを活かし、大手小売業や飲食企業などの農産物生産基地を誘致する施策が必要だと思います。
- ◆農産物のブランド化はJ Aなども取り込んで広域的な話ができる場所の設定が必要な施策では。

「(2) 工業・商業の振興」に関する意見

商工会の一体化をやはり図ってもらう

- ◆市内商工会議所の下野商工会議所への早期統一の実施が必要だと思います。
- ◆商工会の一体化を進める。
- ◆商工会と地域コミュニティとの恒常的な話し合い。場を仕掛けて、活性の相互盛り上げを図る。
- ◆市・市議会主導で商工会の一体化を図れないか！
- ◆商工会を一体化します。
- ◆商工会を早急に一本化するとともに、これらを軸としたイベントを集約開催するなどして活性化を図るべきと考えます。
- ◆商工会の自助努力を促すにはどうするか。火つけ役は誰か？商工課の役割は重大である。

駅前商店街の活性

- ◆各商店において特徴的なものを作り出すことが必要と思います。
- ◆商店街のシャッターを開ける対策。
- ◆商店街の空洞化。
- ◆シャッターを上げさせるため、商店も工夫させるが、何かを考えるべき。
- ◆駅周辺の商店街の空洞化をなくすための対策が必要と思います。
- ◆農商工連携により、市内消費者の利用性向上と大型店との差別化を意識し、地元商店内での地元農産物直売コーナー設置を提案します。
- ◆町中への直売所の出店の支援、それによる周辺商店の活性化。
- ◆寂しい駅前商店を花で埋め、買い物を楽しむ。
- ◆休み場(イス)を置く。

商品券の発行

- ◆プレミア付商品券。年2回ほど発売するとよいと思います。
- ◆地元で購買促進するため、プレミア付商品券事業は継続することが必要と思います。

- ◆プレミアム付商品券はとても好評。今年1回を年2回にした方がよいと思います。
 - ◆プレミアム付商品券の支援投資の費用対効果を一度明示すべきである。ダラダラとやるものではないと思う。
 - ◆プレミアム付商品券。
 - ◆プレミアム付商品券の発行に加え、他の企画も併せて実施することを提案します。
- 企業誘致へ一層の努力
- ◆商業・サービス業の進出を促すため「誘導対策」(製造業に類する発想)。
 - ◆栃木県がトヨタ自動車を誘致しようとしている。当市でも便乗すべきだ。
 - ◆工場誘致は強い方針のもと、営業隊を作って全国に向け働きかける。
 - ◆下野市版シリコンバレーの取り組み。
 - ◆税収増の企業誘致。
 - ◆市内国道新四号線周辺に商工業企業の誘致などの開発を推進することが必要だと思います。
 - ◆工場誘致は医大の購買関係先を研究して、大学の力も借りて営業展開をすべき。
 - ◆工場誘致。税収増にもなるので医・工を中心とした企業の集積を関連づけて実施する。
 - ◆高度医療関連企業(医療機器、医薬品、予防医学...)を誘致する。
 - ◆自治医科大学付属病院を活かした、医・工連携推進を目指した医療関連企業を誘致することを提案します。
 - ◆高度医療機関と連携した新商品(健康商品、医薬品)の開発のための施策が必要と思います。
 - ◆自治医大を活かした異業種交流を図るなど、「次世代新商品の開発」(健康食品、医薬品)
 - ◆コミュニティビジネスの育成を図る支援策。
 - ◆雇用の創出は全市の問題であるが、その突破口は商工課が担うのならここは相当気合を入れて取り組むべし。他所との競争であるから!
 - ◆商工会も医療関連企業誘致も情報関連も商工課の強化が明白である。優秀な人材を集中すべき。
 - ◆国・県・民間等の大型プロジェクト事業の誘致。

「(3) シティ・セールスの振興」に関する意見

文化財の活用化

- ◆JR自治医大駅の名称変更運動を起こしたらどうだろうか。「下野」を入れるのだ!(都市核の宣言をする)
- ◆小金井駅の名称を下野(しもつけ)駅 or 下野小金井駅に名称を変更すべきだと思います。
- ◆観光マップを更に変更し、下野市ならではの情報を発信することを提案します。

- ◆観光面でのイベントマンネリ化。
- ◆観光面で各イベントに工夫！マンネリ化しないようもう少し工夫が必要と思います。
- ◆天平の丘のリニューアル改造。
- ◆余暇に訪れる地をアピールするため、天平の丘、薬師寺等をもっと活用する必要があると思います。
- ◆文化歴史遺産の知識と意味づけを市民と全国に向けて発信することが大切だ！
- ◆文化遺産をうまく活用し観光につなげるため民間に任せるべき。
- ◆観光事業を民営化する。
- ◆豊富な文化遺産のPRをより積極的に外部に向け情報発信する。
- ◆文化遺産の活用とPR不足であり、これらを推進して観光と結びつくようにすることが必要と思います。
- ◆文化遺産を保存するために折角の観光資源を生かすPR活動を行政も市民と一体になって盛り立てていくべきだと思います。
- ◆市内の文化遺産を最大限に活用して、文化・芸術祭などのイベントの発信を提案します。
- ◆歴史的なセールスもよいが、何の背景もない新たな観光資源を創造開発してもよいのではないか。
- ◆有名観光地や施設、温泉やグルメもないため、首都圏からの立地の良さや交通の利便性を活かし、農業を活かした産業（観光や体験含）を育成する施策が必要だと思います。

観光の総合計画づくり

- ◆姿川の夕景や日光連山の遠景にはハッとするような景観がある。当市の絵ハガキをこれで作る。道の駅で売る。
- ◆シティ・セールスは観光だけでなく、わがまち自慢を徹底的に議論する広い場が必要であると思う。
- ◆やはり「当市の観光総合計画」の策定に取り掛かる時機に来た。
- ◆道の駅の運用事業計画を住民に知らせるべき。三セクとは言え、行政の役割は大きいし、住民の期待も大きい。失敗は許さない！

観光の人づくり

- ◆来訪者の滞留につながるシステム及び事業の構築が重要と考えます。
- ◆来訪者の滞留につながるためのシステム・事業づくりが必要と思います。
- ◆観光の何たるかを勉強するべく、職員を他所に派遣すべきである。余りにも他所を知らなすぎないか？
- ◆観光への取り組みは組織的に継続的に広範囲にわたって行わなければいけない。他所との競争である。
- ◆地域特徴を活かした農業中心とした観光事業をするため指導育成が必要と思います。

【テーマ】

下野市の都市基盤における課題への対応について

下野市総合計画の基本目標の1つ「3 都市と田園が共生する快適な環境で躍進するまちづくり」を実現するために、課題への対応を検討しました。

討議の進め方は、各委員が意見を書き出した付箋を、それぞれ関連する項目ごとに集約して模造紙に貼り付け、討議を通して付箋をグループ化しました。そして、それぞれのグループについて対応策をまとめました。

上記目標の実現のため、

「(1) 秩序ある土地利用と快適な住環境づくり」に対して、

「都市の核づくりと空地・耕作放棄地を有効利用する」

「(2) 人に優しい交通環境の整備」に対して、

「道路環境整備と公共交通の充実」

「(3) うるおいのある緑環境の整備」に対して、

「緑の快適空間づくり」

という対応が必要とまとめました。

討議を通じてグループ化した対応策は 部分、委員の個別意見は◇部分

「(1) 秩序ある土地利用と快適な住環境づくり」、「(2) 人に優しい交通環境の整備」に共通する意見

買い物利便性の向上

◇小金井駅から自治医大駅周辺線路西側に大型商業施設を誘致し、市民の暮らしやすさの向上を図るべきだと思います。

◇買い物難民と交通対策も同じテーブルで検討する場も必要か。

「(1) 秩序ある土地利用と快適な住環境づくり」に関する意見

都市基盤・核拠点の取り組みを

◇地域の課題を明確にするため、「コミュニティ・カルテ」の作成。

◇拠点地域は「地区計画」を策定。

◇モニュマン（モニュメント）的意味からも新庁舎の役割は大きい。都市づくりの核と

なる。

◆都市核は医大周辺になるので、当市のベクトルを集中させるモニュマン（モニュメント）がどうしても欲しくなる。よく考えよう。

◆広域連携軸は、タテ・ヨコとも当市はしっかり出来上がっていると更に認識させよう。道の駅の役割も合わせて考える。

◆光ファイバー敷設の意義は大きい。わがまち自慢のひとつである。

課題の把握・整理・提供の推進

◆民有地の活性は行政が立ち入りにくいため、弁護士なども入れた広い会合を設定して対応したらどうだろうか。

◆民間の住宅対策は常時、広報等で呼びかける。

圃場整備

◆圃場整備が進む中、生物減や自然がなくなるようなことは困る。

◆五千石の圃場整備計画の当初計画どおりのピオトープを他市に率先してつくれば、県内の模範的事例になると思う。ガンバレ！

◆農用地の基盤整備はまだまだである。

空地・耕作放棄地の活用を図ったまちづくり

◆仁良川の区画整理事業の投資効果は再検討するべきである。ベトナム戦争化になっていないか？

◆他市で実施している市街化地域内での空地や耕作放棄地活用を目指した市民農園などの整備推進を提案します。（徒歩や自転車で常に管理・利用できる）

◆空地を花いっぱいにする。特に団塊の世代を中心に地域参加の糸口になれば。

◆耕作放棄地の有効利用を図るため、官民合わせて協議することが必要と思います。

◆市内に点在する空地を利用して貸し農園を提供できるシステムを採用すべきと考えます。

◆空地の管理。

◆休耕田を活用したイベント。花祭会場などのスポットを市内各地域に設け、市のイメージアップを図ることを提案します。

◆都市と田園が共生するまちなみ。住宅街と農地の管理の徹底。

◆駅前を花で飾り、ベンチなどを置いて散歩できるようにする。

しもつけ景観条例の策定

◆歴史・伝統ある市を発展させるためにも“しもつけ景観条例”をつくる必要がある。

◆歴史的遺産をまちづくりに生かすための施策が必要と思います。

◆街並みづくりは財政不如意の折だから、個人負担、「心のまちなみ」を考えよう！

◆持続的なまちづくりを推進していくため「環境・気象・生命科学・景観」に配慮。

「(2) 人に優しい交通環境の整備」に関する意見

道路環境整備の充実を図る

- ◆通学路の安全性の観点から、防犯灯を設置することを危険区域などに提案いたします。
- ◆児童・学生の父兄の目から見ると街灯が足りない。
- ◆袋小路が多い。改善できる所は保安上いそぎ改善すべきだ。
- ◆道路側溝の清掃がされていないため、清掃が必要と思います。
- ◆道路の拡巾、歩道、舗装などの年次計画をもっと住民に事前に予定を知らせた方がよい。
- ◆自治医大より南に抜ける柴地区道路は広げる必要あり。(小山市の方は広がっている)
- ◆道路整備はバリアフリーで。住みよい。
- ◆市内各中心地域周辺で自転車や徒歩での安全性や利便性向上を目指した道路や駐輪場の整備を提案します。
- ◆旧国分寺及び南河内地区での線路の東西を自転車や徒歩で安心して行き来できる連絡通路を数ヶ所整備することが必要だと思います。

公共交通の充実(交通弱者)

- ◆交通弱者対策のため、循環バス、借り上げタクシー等、3 駅の利用をしやすいことが必要と思います。
- ◆公共交通の整備には、コミュニティと広域連携に配慮。
- ◆交通弱者対策として、循環バス、福祉施設等へ小まめな時間帯で少人数運搬用車(ワゴン車)の活動を考えるべきです。
- ◆交通弱者対策は避けて通れない課題。ミニバスの試験運行の解析や運営方式も含めて検討を更に続けてもらいたい。
- ◆3 駅と市の主な公共施設を循環する小型バスを運行する(はじめは試行でも良い)。
- ◆小金井駅 自治医大駅 自治医科大学附属病院 石橋駅を運行する循環バスを導入することを提案します。

「(3) うるおいのある緑環境の整備」に関する意見

公園の維持管理をしっかりと

- ◆公園などは地域住民で管理すると良い。
- ◆公園内の清掃が完全でないため、市と地域住民によってするよう提案します。
- ◆公園内の清掃は周辺住民がするのがよい。地域の集まりなどで理解を求めたい。
- ◆公園の管理費負担(市)。
- ◆公園が多くあるのは結構だが、維持管理費も心配だ。
- ◆公園は多いと思うが、樹木と芝生などを中心とした整備が多く、花を中心とした公園整備を提案します。

街路樹・平地林の整備推進

- ◆緑による環境整備のため、「緑の事業計画策定」が必要と思います。
- ◆緑のネットワーク計画の策定。
- ◆「緑の基本計画」も環境基本条例に含めるか、じっくり検討すること。
- ◆街中の都市緑化を強くするために、住民のボランティアに期待しては。
- ◆都市づくりの視点として農地・平地林・河川を疎外しては断じてならない。
- ◆民有地の平地林も含めて森づくり県民税を上手に利用して緑の保全に努める。
- ◆市内の生態系を崩さない取り組みが重要であると考えます。
- ◆山林の道路から1 mぐらいの整備管理の指導（不法投棄対策）。
- ◆平地林を保全すべきであると考えます。
- ◆平地林を保全することが重要と考えます。
- ◆街路樹が無雑作に切られている。緑の美しき秋の楽しみが失われてしまう。きちんと管理するといい。
- ◆環境基本条例の策定にいよいよ取りかかるようだが、良いものを早く作ってもらいたい。
- ◆緑地の環境保全を考え、市独自の条例を策定すべきだと思います。